

# 平成19年度 坂元中学校 研究紀要

## 1 研究テーマ

豊かな人間性の土台を築き，道徳的実践力の育成を図る道徳教育の創造

## 2 主題設定の理由

今日の社会は，生活水準の向上，価値観の多様化と国際化，情報化など，生活の中で多種多様な刺激に満ちており，人間関係を育むべき時期の生徒の教育に，様々な問題が生じてきている。また，学校においてもいじめや不登校などを抱える傾向にあり，心を育てる教育が求められている。

そこでこのような問題を解決するために，心豊かな心を持ち，主体的に課題に取り組み，解決するとといった「生きる力」の育成が求められている。

本校の生徒は，温和で協調性も高くまとまりがある。しかし，主体的に行動する力や，積極性に欠ける部分も感じられる。

そこで，主体的に考え判断し，行動できる実践力を養う基礎基本とも言える，豊かな人間性の土台を築くことを道徳教育の中で推し進めたい。故に本校においては，道徳の時間を，自ら省み人間としてどのように生きるかという，豊かな心を培う場であると考え，学校行事をはじめ，教育活動全体を通して，自ら考え判断し，実践できることを目指して本主題を設定した。

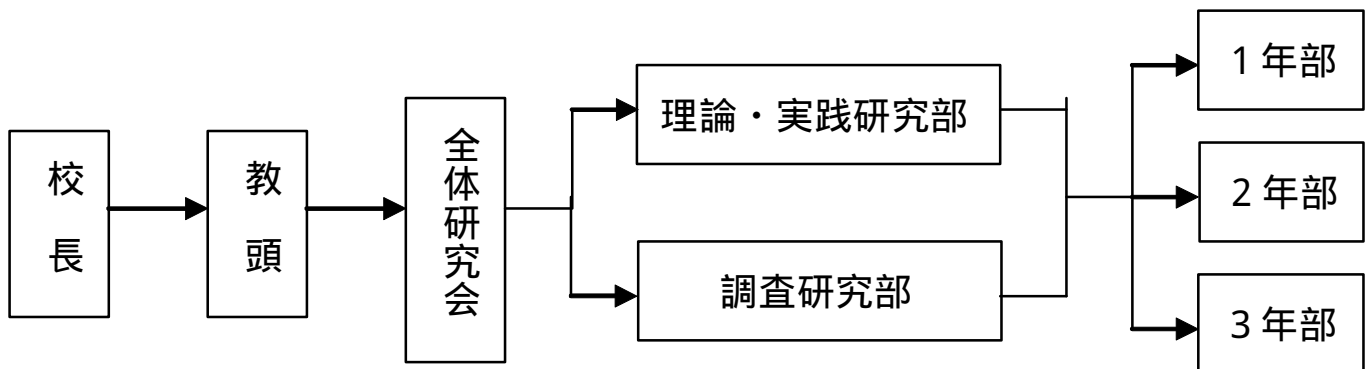
## 3 研究の仮説

単位時間におけるそれぞれの指導過程で，生徒の心を揺さぶる工夫をすれば，道徳的価値の理解が深まり，道徳的実践力が高まるであろう。

## 4 研究組織

### (1) 研究組織

研究推進企画委員会・・・校長，教頭，教務主任，各研究部長，各学年道徳係



### (2) 各研究部の内容

理論・実践研究部... 研究の方向，研究計画，研究の視点，研究内容，指導法の工夫についての研究や，学年部の研究推進状況及び授業を通して明確になった課題の把握。

調査研究部... アンケート，諸検査の作成，分析，考察

5 研究内容

(1) 基本的な授業過程

本校における指導過程は、行事等と指導計画のつながりや、学年・学級の実態、題材、授業形態（エンカウンターなど）などを配慮し、工夫したものを設定している。

段階	過程	指導内容
事前活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態把握</li> <li>・家庭との連携</li> </ul>	<p>アンケート等の実施</p> <p>手紙など保護者への協力の依頼</p>
導入	<b>意識化</b>	<p>問題意識を高めさせ、価値に対する方向性を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習への動機づけ</li> <li>・共通認識化</li> </ul>
展開	<b>焦点化</b>	<p>感動場面と矛盾場面を明確にし、価値を焦点化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の理解と、感動・矛盾場面の明確化</li> </ul>
	<b>追求・深化</b>	<p>価値を追求し、共感・感動を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の動きの把握と</li> <li>・同人化による葛藤などを通じた共感・感動</li> </ul>
	<b>自覚化</b>	<p>資料から離れ、道徳的価値に対する自覚を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の分析や、自己と他者との比較などを通じた理想の自分の設定。</li> </ul>
終末	<b>意欲化</b>	<p>道徳的価値が実践力へとつながる意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理想の自分になるための、具体的な努力点の設定。</li> </ul>
見届け	<b>実践化</b>	<p>家庭での共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子での意見の交換</li> <li>・親子での価値の共有</li> <li>・家庭内での価値の自覚化と意欲化</li> </ul> <p>家庭・地域での実践と振り返り</p>

## 6 研究の実際

### (1) 事前活動

題材に関連した取材や、アンケート実施における工夫。

- ・実態の把握

ねらいとする道徳的価値について事前にどれだけの認識があるのかを調べるため  
実際授業の旅に毎時間準備するのは難しい

- ・資料の分析（価値系統図の作成）

体験学習をビデオで撮影しておく

保護者との連携を通した。

- ・学年・学級通信やPTA

手紙などを保護者への依頼

その他

- ・ゲストティーチャーの依頼

### (2) 意識化

本時の課題や、課題と自分との関わりを意識させる工夫。

- ・教師・生徒の体験や、アンケート結果（ポスター・パワーポイントの活用）

- ・新聞記事の活用

### (3) 焦点化

資料提示の工夫

- ・イラストや写真，ビデオの活用

（ずっと流すのではなく，焦点化，追求・深化等で必要に応じて止めながら）

- ・資料の提示を前半と後半に分ける。

生徒自身が実生活の中で経験している感動・矛盾場面への焦点化への工夫

- ・感動場面・矛盾場面を明らかにする。

- ・掲示物の工夫（物語の流れなど，わかりやすい板書を心がける）

- ・資料の開発

- ・問題形式にして考えさせる

#### ジレンマ資料の活用

・「良い」「悪い」ではなく「こちらもあり得る」「こちらもあり得る」のように設定すると生徒の意見が出しやすい

ジレンマ資料は価値の焦点化が非常に難しく，事前の準備（生徒把握と教材研究）が非常に大変である。また，教師の力量がないと，ねらいとする価値に向かっていけないため研究授業向きではないといわれているようである。

（意見を出させ盛り上げるということでは非常によいが，最近では否定的である）

読み物資料が長すぎて，失敗したことがある。

### (4) 追求・深化

葛藤場面における自分自身の考え方を追求させる工夫。

- ・「どうあるべきなのか」を考えさせ，自らの弱さや醜さを自覚させる。

他者の立場や考え方を尊重しながらより望ましい判断や態度に気付かせていく工夫。

- ・相手の立場に立ってときに，「どうして欲しいのか」を考えさせる。

心の2面性を追求する。

- ・人間としての弱さや迷いに共感させる。
- ・感動場面，達成したときの気持ちに共感させる

よりよい生き方ができた主人公の考え方を考える。

思考・書く時間の確保

雰囲気作りの構築

討論することで相互に考えを深めていく

#### (5) 自覚化

家庭や地域社会など自分を取り巻く人々とのかかわり方を考えさせる工夫

- ・心のノートの活用
- ・「理想の自分」の行動を考えさせる。
- ・アンケートに戻り，再度今までの自分を考えさせる
- ・記述させ今後の展望を書かせる。

できるだけ早く資料から離れる。

#### (6) 意欲化

教師による説話の工夫

・「体験」「悩み・工夫」「課題の発見」「実践」「成果」「更なる目標」といった生きる力へのプロセスがわかりやすい形で述べられるようにする。

保護者からの手紙やメッセージの工夫

- ・学級通信やPTA等の中で保護者への理解と協力を求め，良い（誉める）部分を中心に手紙などにしてもらい，子供への要求（1つか2つ）について書いてもらう。

生徒作文の工夫

- ・「自分への手紙」，「10年後の自分への手紙」など，自己教育力が高まるような作文にする。
- ・川柳や短冊作りに取り組む

#### (7) 実践化

見届けのできるような工夫

- ・生活の記録などでの情報交換
- ・学級通信やPTAでの話し合い。

（学級通信に「道徳コーナー」を設け振り返らせる）

実際の行動に移っても，長くもたないで同じ事を繰り返すので違う視点にまた戻って...を繰り返しているような気がします。

- ・板書の仕方
- ・活発な討論が出てくる教材の工夫
- ・指導案作成（メソッド）
- ・指名の仕方（意図的指名？発表者をあてる？）
- ・説教になる道徳にならないように，また，一方的にならないようにお互いの意見が出せる，考えが存在する道徳ができるようになりたいと心がけているが，難しいです
- ・導入の工夫
- ・道徳ノート
- ・自覚化 意欲化 実践化の部分
- ・発問の仕方について

#### (8) 実践例

# 第3学年 道徳指導案

平成19年11月22日(木)2校時

男生徒21名女生徒19名 計40名

指導者 教諭 池田 修

1 主題名 人間の気高さ 題材名「塩狩峠」三浦綾子著 『かけがえのない君だから』

## 2 主題設定の理由

### (1) 主題観

多感な時期を生きる生徒たち。集団生活の中で、さまざまな経験を積んでまた1つ大人へと着実に歩んでいる。しかし時には困難な問題に直面したり、周りからの誘惑や易きに流されて判断を誤ってしまったりしてしまうこともある。生徒たちは悩み、苦しみ、葛藤しながら成長を遂げるのである。その過程の中で、人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたときに、生徒は強く、また気高い存在になりうる。

しかし、自分に自信がもてない生徒も多く、劣等感にさいなまれたり、人を恨んだり、うらやましく思ったりする。また一方では、夢や希望に胸膨らませ、自分がめざす人間像に少しでも近づき、よりよく生きたいと考えている。そこで、社会へと羽ばたく生徒に「人間のもつ気高さ」や「崇高な生き方」を学んでほしいと考える。「自分のため」だけでなく「公のため」に目を向け、内面に宿る弱さや醜さを克服し、日常生活の中で、自分にできることを考え行動することが生徒に求める気高さや崇高な生き方と捉える。

例えば、ボランティア活動や日常の奉仕作業に献身的に行動できること、落ちていたゴミを自ら拾えるなど生活レベルでの実践力をいう。また、他人が困っている状況や場面に直面したときに見逃さず、すぐに行動に移せる実践力も含まれている。もちろん、前述したように、よりよく生きたいと思うことが前提であり、思い、悩み、苦しむ過程も見逃してはならない。進路選択を迫られている中で、少なくともこれからの生き方を模索している生徒たちに、よりよく生きる1つの指針になればと考える。

### (2) 資料観

三浦綾子作「塩狩峠」は、実話をモチーフに作られた作品でここから抜粋した道徳資料である。列車の故障から自分を含めた乗客が、「死」という恐怖に直面した状況を主人公の立場に立って描かれており、自分の命を挺してまで暴走した列車を止め、多くの命を救った生き方には、誰もが胸を打たれる。ただ、本来主人公は宗教に裏打ちされた気高い生き方を貫いた人物であるので、「自己犠牲」を崇高な生き方として捉えさせるのではなく、常に「自分以外の誰かのために」という考え方をもち、行動しようとして生きていた主人公に共感させることにより、人間としての誇り、崇高な生き方や喜びを感じ取らせたい。

## 3 指導要領との関連

3 - (3) 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること

人間の弱さの克服，人間の気高さ，生きる喜び

#### 4 生徒の実態

この学級の生徒は男女いさかいがなく、トラブルもほとんど皆無である。自主性にやや欠け、発言も少ない。しかし、悩みや苦しみは打ち明けてくれる生徒が多く、生徒間や生徒対教師間の人間関係は良好である。学校行事など協調性を必要とする場面では、練習に励み、チームワークを発揮する。練習過程において、計画に基づいて練習に励むことの必要性を経験してきており、粘り強く困難に挑む姿がある。特別支援学級に在籍している生徒に対して、気配りや支援する雰囲気や育まれており、心優しい集団でもある。ただ、自分が正しいと思うことや信念を毅然と貫けず易きに流される傾向もあるが少しずつ改善されてきている。

進路を選択するという『人生の岐路』に立つ生徒たちであるが、夢の実現に向けての意識的な差がある。計画的・継続的に努力している生徒がいる中で、その日を何気なく過ごしている生徒や、思いばかりが空回りし、悩み苦しんでいる生徒もいる。残り半年の学校生活で、進路の時間や日常の係り活動や清掃活動などを誠実にやり、その価値を自分で見出しながら、人間としての誇りや自己有用感、生きる喜びなどを学び、人格形成をめざしてほしいと考える。

【実態調査】 平成19年10月23日実施 3年3組 対象人数38人

##### 1 ホームから転落，助けようとした計3人死亡 山手線 を読んでの感想

- ・ 一人の男性を助けようとした二人の男性も命を失い、でもこの男性たちは簡単にできないことをやったのですごいと思った。
- ・ 酒におぼれて他人の命まで犠牲にするなんて正直この男はよくないと思った。助けようとした二人の男性は勇気をもって行動したのがすごいと思う。
- ・ 助け切れなかったら、逃げるべきだと思った。
- ・ 一人の男性の不注意で自分とは全く関係のない人を二人も死亡させてしまったので良くない悪いことだと思った。家族もいるのにかわいそうだと思った。
- ・ 二人の人は、まったく知らない人を助けようとしたことに驚いた。
- ・ 転落した人は、感謝の気持ちをもって亡くなられたと思う。
- ・ 人を見捨てない心の良い人だと思った。
- ・ 助けようとした男性二人は勇気ある人だと思った。一人を助けるために自分の命を絶つとはすごいことだし、自分だったら絶対そういうことはできないし、したくない。
- ・ 人のためにと欲してした行動で命を落とすことになるのは「良いこと」なのか「悪いこと」なのかわからない。いくら人のためといっても命を落とすのはということは少し考えさせられる。
- ・ 自分の命を亡くしてまで人を助けようとする人がこの世にいるんだなと思った。

##### 2 帰宅の警官，線路に飛び降り男性を救助 JR東神奈川駅 を読んでの感想

- ・ 突然の出来事にすぐ対応して人命救助を行なうことのできたこの警官の人はすごい。
- ・ 多くの人が助けなきゃという気持ちがある反面、巻き添えになったらどうしようという気持ちで動けないと思います。
- ・ 自ら飛び降りて助けるのはとても勇気があることですごいと思った。ホーム下ではじめて怖いと思ったことはそれだけこの人を助けるのに必死だったんだなと思った。

- ・ 仕事が終わった後でも人のために動くなんてすごいと思った。飛び降りた人を助けるってすごいと思った。
- ・ 周りの人にも助けを求め、冷静な判断で救助できたのはすごいと思った。
- ・ 救助した警官は人命救助という自分自身の役割をどんなときでも忘れてはいけないと肝に銘じていたから助けられたと思う。
- ・ 自分の命をなげうって人を助けるのが当たり前といえるこの人はすごいと思った。しかも勤務外の話というのがすごい。
- ・ この助けた男性はお金では買えない命を救い、お金以上のことをしたと思う。
- ・ この二人は助かってよかったです。冷静で正確な判断が命を救うことにつながったのが素晴らしいです。その無職の男性に「まだ生きる道はありますよ」と言っているようだった。

### 3 **崇高な生き方とは？**

- ・ 人のために尽くすような生きかた
- ・ まっすぐ素直に生きていくこと
- ・ 人があこがれる 欲がなく理想の生きかた
- ・ 上品な生きかた 贅沢な生きかた
- ・ 自分の考えをもっている前向きな生きかた
- ・ 人のために自分自身の利益を考えずに尽くせる生きかた
- ・ 公共の福祉に反することなく国のために尽くす生きかた

### 4 **気高さ**

- ・ 周りに流されることがない。自分に誇りをもっている。
- ・ 気が強く品がある
- ・ どんなときでも優雅に振舞い、自分の力で行動を起こせる
- ・ 成功した人の余裕や気品
- ・ どんな状態でも自分の考えをもち行動する
- ・ 生きていく中での栄養源

#### **【考察】**

生徒たちは、わが身を挺して人を助けた人への尊敬の念や憧れを持っている一方で、どんなに人命救助の場面であったとしても「生きること」を第一に考えている。また、他に対する愛情への感銘も受けている。警察官の使命感や責任ある行動にも共感を得ている生徒が多い。崇高な生き方や気高さの持つ意味については、ほとんどの生徒が不明瞭であり、捉え方もさまざまであった。しかし主題や道徳的実践力に繋がるような言葉もあるので、本時の展開の中で活用していきたいと考える。

## 5 指導にあたって

道徳の授業は、心の教育の中核を担う大切な時間である。年間指導計画に沿って授業を展開してきたが、進路選択を控え、現代社会を力強く生きる生徒たちに育成したい思いもあり、生き方を考えさせる授業も実践してきた。『My life 生き方を考える』と称し、これまでに、題材を使っただけの実践や夏期休暇を利用し、元ハンセン病患者の講話や療養所への慰問、また、文化祭では長崎原爆後に救護活動や平和を訴え続けた永井隆博士の劇を行なった。働くことの意義や共生社会の実現など以上のような経緯から今回は『My life 生き方を考える～人のために尽くす生き方を考えよう～』と設定し、以下のことを留意工夫していきたい。

### (1) 意識調査の活用

塩狩峠の信夫の生き方に通じる最近のJR事故の記事を読んだ率直な感想を聞くことで、主題に迫る崇高な生き方や気高さの定義（人のために尽くせるなど）を設定したい。

### (2) 崇高な生きかた、気高さをしっかり捉えさせる。

自己犠牲が崇高な生き方や気高さにつながらないように、信夫の自己犠牲は究極の選択であり、誰もがなせる行為ではないことを強調する。授業展開終わりに「人間の気高さ」や「崇高さ」という語句を使用する。

### (3) 今までの主人公の生き方を捉えさせる。

事前に資料を読ませ、登場人物の関係や時代背景を押さえておく。授業ではこちらからヒントを提示する。

### (4) ゲストティチャーの活用

生活レベルでの崇高な生き方や気高さにつながる「人のために尽くす生き方」を実践している地域の方からの実際の声を参考に考えさせる。

### (5) 心のノートの活用

終末部では本時のテーマ迫る掲載項目を紹介し、道徳的実践意欲を高める。

## 6 本時

### (1) ねらい

- ア 自分の中にも「人の役に立ちたい」という気高さや崇高さを持っていることに気付く。
- イ 身近な生活の場でも、奉仕的活動や献身的な行いを目指し、よりよく生きていこうとする態度を養う。

### (2) 事前活動

- ア 意識調査をとる。
- イ 塩狩峠の本文を事前に読ませ感想を書く。また人間関係図や時代背景も押さえておく。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の支援・留意点
意識化	1 最近の新聞記事を紹介する。	2分	犯罪や事件を提示し、事前にホワイトボードに感想を記入させる。
焦点化	2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     My Life 生き方を考える                      ~ 『塩狩峠』 信夫の生き方から学ぶ ~                 </div>	3分	問題解決に向けて信夫の生き方から学ぼうとする意欲を高める。記事については自分本位な振る舞いであることを抑える。
追求	3 『場面1』から信夫のとした行動について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     信夫は自らの命と引き換えに、乗客全員の命を助けた（原著どおり）                 </div> <p>(1) 信夫はどうして命を捨ててまでも乗客を守ろうとしたのか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使命感や責任感が強かったから。</li> <li>・ 人として当たり前だから</li> <li>・ 第一は人命の救助だと考えていたから。</li> </ul> </div>	5分	事前に人物の関係図やそれまでの展開を抑える。 北海道図真・人物関係図 ワークシート 自分の命を捧げてまで、多くの人命を救おうとした信夫の判断を肯定的に捉える。 自己犠牲 = 崇高な生き方・気高さであることを抑える。
深化	4 『場面2』から自分と信夫の生き方の違いに気づき、信夫のそれまでの生き方について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     信夫は、乗客のことも考えたが、フジ子との結婚や将来のことも頭をよぎった。次のカーブでは客車が転覆するのは必至のことだ。そう考えた信夫は、必死に止めることに最善を尽くした。                 </div> <p>(1) あなたが信夫だったらどうしたか。 〔場面1 場面2 どちらともいえない〕</p> <p>(2) 信夫の行動がわたしたちにとって難しいのはなぜだろう。</p> <p>(3) 吉川が「信夫にふさわしい死に方のような気がした。とうの昔に、こんな死を知っていたような気がした」といっているのはなぜか。</p> <p>(4) 自分たちにできる崇高な生き方・気高さとは具体的にどのようなことか。</p>	20分	場面2では、自らの命や体裁も大事にしながら、みんなが助かる可能性を信じ最善を尽くすことを抑える。  どちらの考えも尊重する態度を養う。 JR職員の意見を紹介する。 信夫もわたしたちと同じ弱さを持っていたことを気付く。 「人のために尽くす」 = 崇高な生き方・気高さであることを気付かせる。 記入した上で情報交換する。
自覚化	5 身近な人からの講話を聞いて、「人のために尽くす」ことについてさらに理解を深め今後の生き方を考える。	8分	GT：大木場真一氏 (矢上有志の会)

		5分	講話の前に緑門の写真と紹介をする。 数名に発表させる。
	6 授業を受けての感想を書く。		
意欲化	7 詩の朗読	7分	心のノートP70～73

#### (4) 評価

- ア 自分の中にも「人の役に立ちたい」という気高さや崇高さをもっていることに気付けたか。
- イ 身近な生活の場でも、奉仕的活動や献身的な行いを目指し、よりよく生きていこうとする態度を養えたか。

### 7 研究の成果と課題

#### (1) 研究の成果

道徳の価値や教材を、より深く理解することができた。

道徳に対する（前向きな）意識が、生徒・教師共に高まり、道徳の授業及び授業形態が生徒の中で定着した。

生徒の心情を揺さぶる発問を色々な角度から考えることができた。

#### (2) 今後の課題と対策

##### 課題

導入や副読本を読む場面で、生徒の興味を高めたり、資料の内容をわかりやすくするための授業形態や教具の工夫

生徒が自分の考えを積極的に発言できる雰囲気作り

生徒の内面（心情）を多面的に捉え、また揺さぶる発問の工夫

資料の深化から自覚化・意欲化への転換場面でのギャップの埋め方の工夫

教師の説話など、実践化の工夫

##### 対策

写真や資料を効果的に使うことで「追体験」させる。

日常生活での学級経営の中での生徒とのレポートづくりや、道徳の授業での積み上げをする。

価値をより深く捉え、計画段階での入念な授業構想を持ち、資料分析を行う

ゲストティーチャーなど身近な関連事象の紹介

教具・教材・説話等のアイデアや資料の交換を広くできるような教師間での情報を集約する。

## 8 研究公開に対するアンケートの内容

### 授業作りに関する研修について

授業の中で大切な部分を全体で振り返っていたので良かった。

発問について勉強になりました。

チームで動きましたが、周りの先生方が資料集め・模擬授業等に積極的に協力してくださり、大変有難かったです。

短い期間ですばらしい研究成果を出されたと思う。授業された先生方、本当にお疲れさまでした。

話し合いの時間を持ち、多くの時間を費やしたことで様々な意見が出て大変良かったと思う。

県や市からの一貫した研究のテーマ、沿った教材開発、指導のあり方があったかどうか。ない方が束縛されずにしやすいが、研究大会と名の付く以上は、一貫した何かがあった方がいいと思った。

やはり時間が不足し、連日夜遅くまでの取組になった。

他のグループの授業の様子も知る（見る）ことができたならよかった。

直前授業で、事前に指導案を渡しているのに、結局当日までは何も言われず、授業が終わってから指導案のことを言われ、「本当に指導案を見てから、授業を見てくれたのだろうか」と切なく思いました。その後、作り変えることになったので、結局それまで検討してきた時間が、今あったら・・・と思いました。この前後の時間調整・計画の立て方等改善をお願いします。

授業者に負担をかけすぎた傾向があったのでは？ 今後はこれよりも一丸となって授業者に協力したい。

### 前日までの係活動について

打ち合わせ時間も十分あり、良かったです。

チームとして後半はよく動けたと思う。

何も分担を入れないでくれて（授業者）助かりました。有り難うございます。

機器係 各学年ごとに必要な機器の数を把握していただいていたので助かった。

係分担を事前に知らせていただいていたので活動できた。

計画的で、早め早めのスケジュールが組んであり、進めやすかったと思います。

もっと積極的に参加すべきだったと反省した。

どこまで県道教・九道教がしてくださるのか、あと、校内の係分担も重複されていたり、係の職員まで伝わらずに話を進められていたこともあったので、打ち合わせをしっかりとすることや、主催者側の準備して頂けることをはっきり示してもらえたらよいと思います。

スタートが遅くなってしまったので、不十分なところがあり申し訳なかったです。同じ係の先生方にもご迷惑をかけました。（校内設営係）

### 前日の準備（5～6校時）について

前例のないことで係の先生方は特に大変だったと思います。生徒の働きぶりに助けられ

て何とか乗り切ることができました。

生徒が一生懸命頑張ってくれた。

接待用の紙コップは、倍の600個用意していてちょうど良かったです。

職員・生徒、そして事務局の方々、各々のポジションでスムーズに行われていたのでは？  
さばくる先生方のご苦勞に感謝します。

授業者も掃除に割り当てて良かったと思います。

不慣れのため2時間では準備できませんでした。次回からは大丈夫！？だと思います。  
担当場所の変更に気付かなかった。

作業のあとに、またいつもと違う人がやってきて、よく分からないのに掃除していたのが、  
なんだか時間がもったいないと思いました。(作業内容、特にトイレ)

三年生に1Fを掃除してもらおうということだったのですが、あまりたくさん見掛けなかったのですが・・・。

授業学級はもっと柔軟な動きができる場所にしてあげると良かったのでは？私のクラス  
(1-2)は半分教室に残して設営をさせてもらう余裕がありました。が、そうでなかったところもあったのでは？

生徒の清掃に対する意識がない。かねてからの清掃活動の指導をきちっとすることが大事。

生徒の中で仕事が無くなってしまった生徒がいたので、何かさせたかったのですが、十分な指導ができませんでした。

公開当日について

後片づけの部活動生、よく頑張った。

PTAの方々に大変お世話になりました。

授業しやすい環境を整えていただきました。有り難うございました。

PTAのお母さん方が、当日担当外の仕事を頼まれ、慌ただしかったようでした。係の役割と人員配置を、もう少し詰めた方がいいかなと思いました。

一回も他のグループが見られなかった。

研究公開の授業の間授業をしていて、研究授業を見ることができなかったのが非常に残念でした。

せっかく会場校として提供しているのに、会場で出された資料は全部もらいたかったです。  
受付でもらったりしていたようで、そこでもらえないとそのままになってしまい、ほとんどもらえませんでした。

ビデオ撮影を忘れてました。

体育館の授業研究が長引いたため、会場案内のアナウンスが入って、よく聞き取れなかった。  
連絡を取って体育館だけ放送を切って、後で再度体育館に流すようにすれば良かったと思う。

他授業があったので、先生方の公開授業を見ることができなかったので残念でした。事後研修とかはないのでしょうか？

錬心館はとても寒かったです。

スムーズで良かったと思います。授業(公開以外)のクラスは帰せなかったのでしょうか？

## 全体を通しての感想や意見

無事終わって良かったです。お疲れさまでした。

職員同士がコミュニケーションをとり、協力できて楽しく学べた。

研修を通して、色々な先生方の御指導を受けることができ、とても勉強になりました。

公開に来られた先生方にとって何らかの実りをもたらす1日になったのではないかと思います。チームワークの大切さを改めて感じました。

授業をされた先生方をはじめ、中心でされた先生方お疲れさまでした。

下校時の生徒たちの様子も問題なく、日頃からの先生方の指導の成果だと思った。

授業をされた先生方、本当にお疲れさまでした。熱心に授業研究をされていて、本当に素晴らしい授業でした。とても勉強になり、道徳の重要性も再認識しました。

見えないところでの配慮など、有り難うございました。授業させていただき。今後の自信になりました。学ぶ場を与えていただき感謝しています。グループの先生方、ミーティング、直前まで御指導有り難うございました。

6クラス授業提供は、やはり苦しかったです。チームは3人でした。みんな研究不足で、経験不足で、3人の気持ちが似通いすぎてしまい、新しい視点で見られなくなったりと、3人でとても苦しい思いをしました。家庭もものすごく犠牲にしました。でもすごくいい経験をさせてもらったし、チームや助けをくださった方に感謝します。(でもしばらくはもういいです笑)

勉強不足を感じました。授業の中身を色々な方に見てもらい、中心発問からじっくり考えるべきだったと思います。

研究授業をきちんと見るためにも、授業クラス以外の生徒は下校させた方が良かった。教師も生徒も中途半端になったような気がする。

結果的に良い公開となりましたが、県・市の道徳部会の活動が全く見えない。予算面など仕方がないのは分かるが、検討すべきだと思います。子どもの心の教育もですが、我々のスキルアップのためにも、校内・校外で機会を設け、共に研鑽できたらと思うことでした。